会報あがた
松本県ケ丘高等学校東京同窓会
発行人　大澤清重二
編集人　森山修一
発行所　〒100
東京都千代田区大手町2の6の2　日本ビル6階
東南貿易株式会社内
TEL　03(279)2771(代)
1部　100円(送料含)

同窓会の発展を

本部同窓会長　小川静男

第18回東京同窓会の開催おめでとうございます。郷里同窓会を代表して心からお喜び申し上げます。私は旧制・松本第二中学校第5回の卒業です。樋口和博、笠原正文、藤木英一の先輩諸氏と共に長い間副会長を努めさせていただき、その間たびたび東京同窓会にお伺いいたしておりました。

いつも感じますことは、東京同窓会は恩師を大切におもてなしをしていること。第二に会の組織がこまかくゆきとどいており、会員の皆様が根本会長を中心として「和」をもって一致団結していることであります。まことに喜こばしく心から敬意を表します。

郷里の松本県ケ丘高校同窓会は、不肖、私が大先輩藤木会長からバトンを受けつぎ五年目を迎えました。浅学菲才の私を数多くの役員並びに会員が助けて下され、どうやら運営いたしております。今春には「昭和59年度会員録」の改編が完成しました。

さて、小林庄司先生が長野県議会議長に、全県議団一致の推せんを受けて就任いたしました。輝やかしい同窓会の名誉であります。

次いで第二グランドの拡張と校舎大改築に着手したことであります。昭和38年母校火災のあと新校舎が出来ましたが、玄関前の校舎は大正12年以来の旧校舎で、老朽甚だしく幾度か修理改築が行なわれてまいりましたが、いよいよ時代おくれの感が甚だしく今回、全面大改築をする運びとなりました。この陰には副会長の小林議長、有賀県議、塚原先生等数多くの同窓生、並びに地元県議団、松本市長等のお力添えが大きな力となっております。五ケ年計画で新しい時代の高校になります。小林議長、有賀県議は共に自ずから文教委員を買って出て、母校改築の原動力になっております。

第二グランドの拡張は現在、地権者と折衝中であり難行しておりますが、地元PTA並びに同窓生等の御理解とご協力をいただいて、是非とも完成いたすべく努力して行く覚悟でございます。

私共役員一同、新年度の目標として校舎大改築、第二グランド拡張をめざし、母校教職員・PTAと相協力し邁進いたして行く決意でございます。終りに東京同窓会のご発展を祈念して私のご挨拶といたします。

母校の近況

学校長　安江昭祐

桜・桃・木蓮・沈丁花…等々、いま県ケ丘周辺は花で埋まった観があります。街には花の香が漂い、なんとも心楽しい好季節であります。

さて、母校の近況を少しく東京同窓会のみなさんに、おしらせ致します。

4月3日、県陵は他校に先がけて始業式・入学式を挙行。つい先日には、創立記念日が意義深く盛大に行なわれ、新年度は順調なスタートをきっております。

同窓生諸兄におかれましては、本年も何かと物心両面にわたり、お力添えをいただくことと存じます。われ〳〵教職員一同、本校の一層の充実発展のため全力投球をして、ご期待に応えたいと念じておりますので、よろしくお願い申しあげます。

【進路状況】 長野県下の進学状況は、年々減少の一途を辿り、いまや教育県信州の面影は少なくとも、進学に関する限りありません。そんな中で本校は、数の上からも、内容的にも年々上昇傾向にあります。国公立126、私立343、短大国公立40、同私立60、各種25の計594の合格(二浪・併願を含む)を見ました。

国公立では、昨年を6名ほど下まわりましたが、現役は61名と過去5年間で最高の合格数となっております。

なお、就職は16で全員が希望する分野へ進出しました。

【母校愛リレー事業】 本年も4月17日の開校記念日に卒業30周年記念事業として七期会の皆様から、図書券30万円と校歌碑一基(目録)の寄贈をいただきました。また同期の巣山靖司さん(大阪外国語大学教授)が記念講演をされました。「世界政治を考える―核軍核とアフリカの飢餓の矛盾」と題した内容は、非常にわかりやすく、ともすれば政治の世界とは無縁になりがちな生徒達に、大きな感銘を与えました。

【校舎改築整備計画について】 五ケ年計画の二年目に入り、本年は校舎増改築の設計の年にあたります。来年度からは特別教室棟の工事がはじまります。残念なことは、本年秋には実現の予定であった第二運動場が遅れた点です。地権者との話し合いが難行し、前途多難な現状にありますが、次年度実現に向けて、一層の努力をしていきたいと存じます。

同窓生諸兄におかれましては、帰松の折にはぜひ母校を訪ねていただき、学校へのご要望や、後輩への激励などをいただきますれば幸甚に存じます。

(4月22日記す)

昭和60年度進路状況

【進学】

国立	112
公立	14
私立	343
国公立短	40
私立短	60
各種	25
計	594

(但し、現・浪の延合格者数)

【就職】

一般企業	11
公務員	5
計	16

【家居】 …… 2

次回予告

第19回総会は…

昭和61年6月6日(金)午後6時より**麹町会館**(千代田区平河町)で開催の予定です。

世界一の東京タワー
代表取締役副社長　大澤清重(中学13回卒)
明治大学理事　評議員
㈱エフエム東京取締役
東京都港区芝公園4－2－8
電話　03－433－5111

輸出入・国内販売
鉄鉱石・石炭・鉄鋼原料全般・鉄鋼製品
各種産業機械・石油製品・化学工業薬品
東南貿易株式会社
代表取締役社長　根本静夫(中学5回卒)
(本社)東京都千代田区大手町2－6－2日本ビル6F
TEL(03)279-2771～8
(出張所)君津・名古屋・広畑・八幡・大分・大阪
(給油所)大分
(駐在員事務所)シンガポール・マレーシアイポー・インドゴア・台北

リレー随想

永野社長の教え

中五　根本静夫（会長）

光陰矢の如し、永野名誉会長が逝かれてから早や半年が過ぎた。

私にとって永野名誉会長＝以後社長と呼ばせて頂く＝は公私に亘る大恩人であり、師でもあった。

鉄鉱石の輸入を主とした東南貿易株式会社は26年前の昭年33年3月に設立されたが、当時、富士製鐵株式会社の社長として多事多忙のなか、何くれとなくご面倒をみて頂いた。無手勝にも等しい中で会社が生れ、順次軌道に乗ってきた。その間の一コマ〳〵が脳裏に焼き付いて離れない。

「大正池」　西塔義睦（高9）

想い出す度に「あのお忙しい永野社長が、私が如き若輩をあそこまでご案じ下さったのか…」と今でも涙が湧き出るのをどうすることも出来ない。

非力非才の私が今日まで会社を曲りなりにも支えてこられたのは、偏に永野社長が事に触れてお示し下さったご温情によるものである。

永野社長に学ぶことは、大小に拘わらず多々あるが、私にとって何よりも大きな教訓は、毅然たる決断力と抱擁力である。

印度の旅にお供した時には、土産物屋で小さな仏像を買うのに、朝食後、三日間も通いつめ遂に当初の半値で買われ「根本君、印度ではこうして買うんだよ」とにっこり笑われ、さりげなく土地〳〵の民情に合わせての買い方を教えて頂いた。

昭和42年のことと記憶するが、永野社長の長兄で運輸大臣をしておられた永野護先生（故人）が信州松本に来られ、私が上高地をご案内したことがある。同地出身で同窓でもあった唐沢俊樹先生（故人・当時法務大臣）も同行され、深い山々の風景に堪能されて大変気に入られたご様子であった。

この話が永野社長の耳に入り「是非一度行ってみたい」とのお言葉をいただき、仕事の合間をみて、その翌年、永野社長ご夫妻が日本アルプスに行かれることになり、私がご案内役を務めることになった。ご夫妻は良く晴れた空に連なる峰々を充分楽しまれて帰途につかれた。

今日の高速道路と違って、当時の国道はまだまだ山間、岩肌をくねくねと縫って回る山道だった。漸く日も暮れようとして山並みにも黒々とした陰が落ち、山特有の霧が気になり始めた頃、一車線道路ほどの路幅の難所にさしかかった。右手はむき出しの岩肌、左は杉や桧が生い繁る谷間である。当時のこととて信号機やガードレールもない。

五分程走ったところで、前方からトラックとおぼしき対向車がきた。杞憂が適中した。どちらかが後退しなければならない。先を急ぐことでもあり、また折角の興趣がそがれることでもあって、私は内心「困ったことになった」と思った。

トラックの運転席には甚平を羽織った屈強な若者がハンドルを握っていて、人相も良くない。高い運転席から見下すだけに威圧感がある。トラック諸共に突っ込んでくる形相だ。まかり間違えばひと揉めある。とっさにそう感じた私は車から飛び出して相手の運転席に近づき、ポケットから一枚出して握らせた。若者はその札をチラッとみて一言も云わず、自分の車を後退させ始めた。

ほっと一息入れて、車に戻ると、永野社長は「根本君、その方の道では君の顔が良く効くことは知っていたが、こんな山奥にまでもその顔でパスして仕舞うのかね。へェー」と云われてにっこりされた。

「そんなことは…」と答えながら私は汗が噴き出すのをどうすることも出来なかった。

「永野社長はすべてお見通しなんだなあーそれでいて温く労をねぎらって下さる」と思った。永野社長は、後部座席から私が何をしたか、じっと見ておられたに違いない。何もかも全てを包み込んでしまう裁量、度量を兼ねそなえたお人だった。今、想い出しても冷汗が出るとともに、ものぼのとした永野社長の温かさを感ずる。その他、想い出は枚挙にいとまがない。

それにしても、永野社長は、私が何らのご恩返しも出来ないまま、逝かれてしまった。私ごときには出来ようもないお方だった。我が身の不甲斐なさを、今更の様に改めて噛みしめている今日この頃である。

（この一文は「永野重雄回想録」＝昭和60年刊行＝より転載したものです。）

NCR　OA機器販売代理店
ジャパン・ユニティ株式会社
代表取締役　銭坂八郎（高7）
東京都中央区築地2－15－15
ステュディオ東銀座514号
〒104　☎03－542－6877

山岸光臣法律事務所
弁護士　山岸光臣（高3）
〒101　東京都千代田区神田佐久間町1-14
第2東ビル8階・801号室
電話　03－255－2700
03－255－2709

ケル株式会社代理店
コスモ・スリー株式会社
代表取締役　西村和夫（高7）
〒101　東京都千代田区外神田6-6-7
梨葉ビル5F
TEL　03－832－0560(代)
FAX　03－832－0595

叱られる権利

中一　樋口和博（名誉会長）

電車を待つ小田急線新宿駅の行列は長く続いていた。事故でもあったのか、だいぶ遅れて急行電車が着いた。ところが、電車が着くと同時に中学生らしい三人の子供達が突然走ってきて割り込み乗車をしようとした。すると、私のすぐ前にいた老人が、「こらっ、お前達は何をやるんだっ行列の後ろへ並びなさいっ！」と大声で怒鳴った。その人はすでに古稀を過ぎていると思われる老人なのに、その声には張りがあり、態度も毅然としていて、行列の人達もその子供達も一瞬びっくりしたのであろう。その声に圧倒された子供達はこそこそと、どこかへ散って行った。

私は、その老人のすばらしい勇気と果敢なる発言と、そして更には子供達に対し、些細なことながら社会生活のルールを守らせようとする叱りの言葉に共感を覚えてほっとしたものである。

とかくこのごろは、事なかれ主義の人が多くなり、子供達の行動をはじめ社会生活の色々な面でこのようなルール違反の行動に対しても、ただこれを憎々しげに見ていたり、知らん顔しているだけで勇敢にこれを咎めようとしない。叱りつけようとしないのである。そして子供達が何か大きな事件を起こすとあわてて、これを批難したり、大人達への反省の発言をしたりする。可愛想なのは子供達である。

このようにして育った子供達は、大きくなってからも平気で社会生活のルールを無視するような人間に成長するのであろう。それは幼き頃にこのような些細な反社会的行為の芽生えがあったとき、大人の世界からきびしく叱ってもらえなかったからである。

このごろ問題少年に関する批判が、やかましく叫ばれている。家庭内暴力、校内暴力、登校拒否、暴走族、浮浪者襲撃、さては電車内暴力など毎日のように、いやなニュースをきかされる。そして識者の間からは、これらの問題が起こるたびに、いずれも立派な建設的意見が出されてくる。しかしながら、それらの人達を含めて私達はおたがいに自分達の身辺に起った、ささやかな社会生活のルール違反の芽をつむため自身の身体を張ってする具体的、現実的配慮については、まだまだ、その努力に欠けるところが多いのではないか。

少年非行の芽は、早いうちに摘みとられなければならない。子供達には一般的な高度な知識を教えることも確かに必要である。だが、その前にまず社会生活をしていくうえで一番大事なルールを守ることを教え込まれなくてはならない。家庭生活、学校生活、社会生活において、やっていいことと、やっていけないことのけじめをつける躾がなされなければならないと共に、もしルール違反があったときは親でも教師でも社会一般の人でも、この老人のようにその身体を張って断乎として厳しく叱るべきである。

私は幼い頃、両親をはじめ兄姉達から、きつく叱られたことがしばしばであった。乱暴な遊び方をして学校の窓ガラスをこわしたことで、教室に一時間も立たされたこともある。新しく転校してきた女の子をいじめたことの責任者として校長室に呼び出され、きついお叱りを受けたこともある。けれども、私が教室に立たされている時でも、同級生の連中は先生の目をぬすむようにして私に温い救いの目を投げかけてくれていたし、校長室に呼び出されて帰ってくると、同級生の仲間達は私を取り囲んでなぐさめてくれた。

私達は、叱られることに、さして抵抗を感ずることもなく、お互いに同情しあっていたのである。

このごろ、低学年の子供達が先生や親に叱られて自殺したり家出したり、登校拒否などすることが目立つようになった。このごろは叱られた子供達が、その悲しみに共感をもって同情してくれる仲間がいなくなったのではないか。立たされている私に温い同情の目を投げかけてくれたような仲間がいなくなったし、校長室から打ちしおれて出て来た私を、寄ってたかってなぐさめてくれたような仲間がいなくなったのではないだろうか。

このごろの子供達は小さい時から皆んな自分のことだけに精一杯で、叱られた仲間の心の痛みをいやしてやるようなやさしさがなくなったのかもしれない。そして、それと同時にこのごろの子供達は家庭でも学校でも社会でも叱られる機会が少ないため、時たま先生や親達に叱られたことによる孤独感と心の痛みから逃避の道を選ぶのではないだろうか。

賀川豊彦先生が、何かの書物の中で「子供達は叱られる権利がある」と言っておられたことがある。このごろの社会で、叱られる権利をうばわれ、叱られる機会の少なくなった子供達は、まことに不幸である。

（「信州の東京」四月号＝長野県人会連合会発行＝より転載）

「野辺の神」　西塔義睦（高九）

JAV 日本エアービジョン株式会社
ラビットツアーセンター
（運輸大臣登録一般旅行業第482号）
代表取締役　中島吉比児（高7）（義彦）
〒100 東京都千代田区有楽町2-3-5隆和ビル6F
TEL 03－572－4541㈹・FAX 03－572－1638
渡航センター　03－572－4550（直通）

同窓会・県人会・戦友会・趣味の会
職場の会・ゴルフコンペに……
記念撮影の御用は
石田写真館
代表 石田光宏（保改め）
〒160 東京都新宿区西新宿7－22－18
電話　03－371－7607・7615

出版
内川千裕（高7）
株式会社 草風館
〒101 東京都千代田区神田神保町2-3
電話　03－234－1892

想い出の記

＝百里の旅の第一歩＝ ①

中七　塩原貞文（顧問）

「会報・あがた」第七号の発行に因んで、中学七回の私に寄稿をしてほしい…と幹事の方より連絡をいただいた。その要望に応えて、自分なりに、いままで歩んできた道のりを綴ってみたいと思います。文章が誠に不得手で、さあ纏めるとなると、中々、思うように捗らない。あっちへ行ったり、こっちへ来たりの拙文だが、ご了承願いたい。

私は大正五年（一九一六年）松本市で生まれた。女鳥羽川畔の桜河岸という処で、市の文化財に指定されている念来寺鐘撞き堂のすぐ近くです。

四人兄妹の三男坊。幼少より負けず嫌いで粗暴を重ね、いちばん出来の悪い方だった。随分と両親を困らせること夥しく、近所のワルを集めてはガキ大将を気取っていた。

夏の風物詩を彩る青山様の祭りは、喧嘩が付きものの年中行事であった。

〈青山さまだーい、ワイショイコラショ…〉とやっているうちに、隣の町内の神輿とケンカをおっぱじめる。負けると泣いて家へ飛び帰っては、家族に当り散らすという始末で特に母親は、ほとほと手を焼いていた。

そのせいか、中学へ入学するや、寄宿舎預けという憂目をみた。勝手放題に振舞って来た事への報いであった。私の母が密かに知人の手づるで日之出町に住む、武井吉次郎先生に頼み込んだらしい。

入学して二ケ月も経たないある日、柔道の授業が終った直後、教員室に呼ばれた。先生は半ば強制的に、私に命じた。「君の母さんと話し合って決めたから、明日から寄宿舎へ引越すように」と…。入学の喜びも束の間で否応もなかった。

母は、私の行く末を案じ、寄宿舎での団体生活を通じて一人前の男子として、他の生徒に伍して行くための修業をさせようと考えた様だ。それと同時に父の職業柄、当時、七～八人も使用人が同居していて、私が家に居ては商売上邪魔になるという事情もあったらしい。

入舎した一階の三号室には二人の先輩が待っていた。即ち、五年生で剣道二段の折井千代人さん（中三回）と、三年生で柔道初段の深沢増夫さん（勇市＝中五回）であった。

毎日、朝晩の起居を共にし一年坊主の私にとって、規律ある生活は少なからず窮屈であった。しかし、先輩の二人は親切で、身の仕付け作法などを教えられた。こうした諸々の薫陶が、学窓を卒えて社会へ出てから、どれほど有益であったか計り知れないものがある。特に、二年近くの寄宿舎生活で手にした「のぞみの友」という小冊子には忘れ難いものがある。

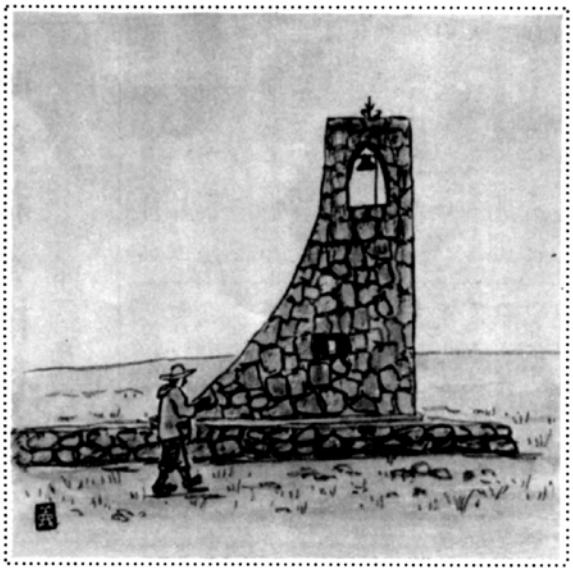
当時の寮長は古田さん（中三回）で、何かの集会の折に大先輩の樋口さん（和博＝中一回）を招かれた。

樋口さんは、この本を携えてみえ、その中の一章を一句一句声高らかに諭すが如く、寮生に講読して聞かせた。細かい内容は忘れたが、「一里の旅の第一歩、十里の旅の第一歩、百里の旅の第一歩は、何れも同じ〝第一歩〟ではあるが、その第一歩を踏み出す覚悟（目標・方針）は、それぞれに違う。心して第一歩を踏み出そう――。」というものである。

このことは、よく憶えていて、中学を卒えてからも益々鮮明になった。

親元を離れて独立し、遥かに遠い鮮満国境の異郷の地で仕事を終えて、寂しい時、悲しい時、失意のどん底の時、五〇年も経た今日も、あの寄宿舎生活の懐かしい青春時代に、迷うことなく心に築いた教訓が、未だに忘れることは出来ない。【続く】

――次回は「国境の街」



「美しの塔」　西塔義睦（高九）

編集後記

▼…第七号を手にして「オヤッ！」と思われた方が多いのではないでしょうか。前号の総会特集号とくらべ、ニュース性が殆んど無いからです。今号は、はっきりそれを意識して編集しました。

▼…「リレー随想」がそれです。他誌よりの転載や、オリジナルを加えて先輩三氏の一文を掲載しました。

▼…先達の思い出や社会時評、また中学時代の懐旧などそれぞれ珠玉の短編としての味わいがあります。

▼…さし絵は西塔義睦画伯（高9）にお願いしました。墨絵のもつ幽玄の世界が感じられるでしょうか。

▼…きょう、第18回総会。紫陽花咲き誇る好季節…。歳々年々花相似たり、年々歳々人同じからず――。来年もまた元気なお姿でお会いしましょう。（桐原）

塩原貞文（中7）
〒145 東京都大田区田園調布2-39-5
TEL 03-721-3677
美鈴産業株式会社　代表取締役
梓建設株式会社　代表取締役

株式会社 忠実屋
専務取締役 金森方志（中17）
本部 〒160 東京都新宿区歌舞伎町2-1-11
電話 03-209-2121(代表)
03-208-8045(直通)

貝と季節料理
渡津海
本堂文隆（高17）
〒162 東京都新宿区神楽坂2-22
(国電・地下鉄 飯田橋下車)
電話 03-267-6415